



# 波佐まるごとミュージアム 記念スタンプ設置場所



「スタンプラリー帳」は、浜田市金城民俗資料館に備えてあります。コースは3Kmです。  
「能海寛歌碑」巡りコースは、5Kmでウォーキングコースに最適です。

# 能海寛詠歌碑設置場所



# 浜田市金城民俗資料館 (S48.11.3 開館)

この資料館は西中国山地国定公園大佐山(1,096m)の西北麓に位置し、南北に細長い盆地の中央部、金城町波佐イ 425-5 番地にあります。

江戸時代は津和野藩に属し、元和 3 年(1617)に波佐代官所が置かれ元禄 4 年(1691)の改高により波佐組 7ヶ村 3,000 石となりました。その時代において「米紙上納」という言葉で示されるように、米と楮半紙の上納が定められ、波佐地方の全農家が紙漉きに携わっていました。資料館はこうした時代の背景となった農家の蔵を模して設計されています。



浜田市金城民俗資料館

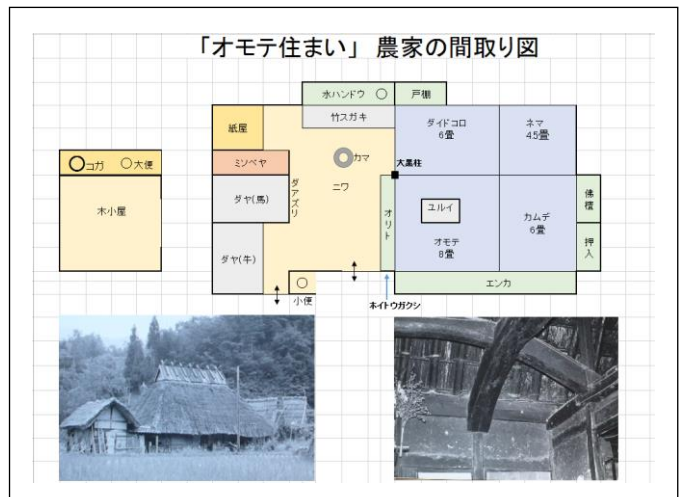
ここに展示している有形民俗文化財は、昭和 43 年から「西中国山地民具を守る会」が調査・収集し、山間部農村の生産生活を示す資料として体系的にまとめた 3,500 点を展示しています。

## 【囲炉裏の間】

囲炉裏の位置で「オモテ住まい」、「カッテ住まい」という名称で呼んでいた。オモテ住まいの形式の方が古く、カッテ住まいは、大正時代以降に勝手場の部屋を半間広げて、囲炉裏場が設置出来るようになったものです。囲炉裏の間の展示は「オモテ住まい」の展示である。



囲炉裏の間



## 国指定重要有形民俗文化財「波佐の山村生産用具」758 点(S46.12.15)

(指定理由) 旧波佐村は、中国山地の分水嶺に近い高地にあり、殆どが山地で農地は少なく、江戸時代には津和野藩の紙年貢に供するため紙を漉いていました。民具収集は住民の自発的意志によって巨細にわたり取りまとめたもので質量ともによく備わり、この地域の生産生活の特色を示すものとして重要。

農具	244 点
山樵用具	110 点
紙漉き用具	110 点
紡織用具	152 点
運搬具	64 点
仕事着	78 点



千歯扱ぎ作業



唐臼挽き作業

## 【農 具】

農作業全般に係わる民具を体系的に収蔵展示しています。収集当時、実践民俗学を提唱して、「民具を用いた労働慣行」で農作業を再現記録作成した写真資料を併せて展示しています。鎌などは 10 種類の用途別の比較が出来、鋤などは右利き、左利きの人達を使用した摩耗の様子で判別できます。田植綱も 6 種類あり、進化の様子が分かります。ハバキなどの編み機に使用するツツラコなども 10 種類あり用途などの比較研究ができます。



農具類の展示模様

## 【山樵用具】

波佐地方は、周囲が山林に囲まれた地域で木こり用具は、古来生業として木挽き職人が使用した山樵用具は、質・量とも豊富で道具類の進化の様子が用具を通して、理解できるものです。

明治末期から大正初期にかけて、四八枕木(栗)が 10 万丁生産され、周布川で運流による川出し作業が行われ、多くの住民が従事した。

たたら製鉄が終焉してから、農民は馬による駄賃稼ぎができなくなってからは、挙って、炭焼き仕事に移管した。これらの用具を展示。



大鋸、くらうち鋸、そま、手鉞など



背こうち、腰ごなど

## 【紙漉き用具】

江戸時代津和野藩領だったことから全農家が紙漉き作業に携わっていた。茅のヒゴを馬の尻毛で編んだ一枚漉き用の「漉篋」は希少である。江戸時代の旧製法による紙漉き用具が全て揃っている点は全国的に見ても貴重である。

1971年に江戸時代に行っていた旧製法による紙漉き再現記録作成で用具と作業状況の判る写真展示で旧藩時代の紙漉きが理解できるよう展示しています。

紙漉き作業工程順に展示しており、板干し、裁断、紙年貢の半紙を背負って運搬する「紙負いこ」なども展示。



紙漉き用具の展示室



楮蒸し作業

## 【紡織用具】

紡織用具は、紙布・麻布・木綿布・絹布の4種類の原料が加工工程順に全て揃っており、地機、箱機、高機と進化した機織り機と関連する付属用具も豊富に揃い進化の状況が比較研究できる資料群です。江戸時代から全農家で、家族の衣類は全て、各家庭で機織りを行っていました。

特に、紙布は4枚漉きの和紙を6mm幅に切り(小切・天蓋切)紙糸にして、織り上げたものが全工程順に展示。麻布は、大麻栽培から伐採、麻蒸し作業を経て荒麻収穫までを記録した写真も展示。木綿布は、綿花栽培の行程の記録写真を展示。絹布は、「天蚕」と称される山繭も展示。

江戸時代、畑作の大半は、楮畑であったため、綿花の栽培は殆どが出来なかった。明治維新になって楮栽培の拘束が無くなってからは綿花の栽培されるようになって、明治末期から、大正にかけて木綿織物が主流となった。このような諸事情で衣類の「紙布」が明治中期までウエイトを占めていた。



地機用の「サイ」などの小道具



紡織用具展示室



実践民俗学「大麻の栽培実験報告書」



麻蒸し作業の様相

### 【運搬具】

人体に就けて物を運ぶ、「背こうち」は5種類あり「れんじゃく」を用いて背負う用具。「わがり負のこ」は4種類あり荷台の進化を知ることができる。

たたら製鉄の盛んだった時代の「馬の荷鞍」と「牛の荷鞍」は、砂鉄や銑鉄の運搬に供していた。



馬の荷鞍

牛の荷鞍



「荷いこ」などの運搬具

### 【仕事着】

農作業着は、明治初期頃までは紙布製の比率が高く、じんべい、こでなし、田袴などがあり、寝具では「鉄布団」と呼ばれる紙布製の布団類は貴重である。鉄布団⇒ツヅリ布団⇒木綿布団の進化も比較できます。雪・雨の降水量の多いこの地域は、雨具、履物類が豊富である。



農作業着と寝具類の展示



履物類の展示

## 島根県指定有形民俗文化財「波佐の山村生活用具」 221 点(S47.7.28)

(指定理由) 石見部山間部における伝統的食生活を系統的に知ることができる資料です。

食品製造貯蔵用具	41 点
食物調理調整用具	76 点
飲食用具	104 点

### 【醸造・製造・貯蔵用具】

購入品は、唯一「塩」であった。後は自家生産品を用いて自給自足の生活が可能であった。

塩籠に塩を入れて「苦汁槽(にがりふね)」でニガリを採り、豆腐製造をする。味噌造り、醤油造り、にも塩は欠かせない。

明治 30 年頃までは、自家製酒造免許が 1 石以内であれば税金を納めてドブロクが製造できた。酒粕を焼酎採り器で焼酎の醸造も行った。

油徳利、苦汁徳利、醤油徳利、大徳利など往時の醸造・貯蔵用具を豊富に収蔵展示している。サツマイモを貯蔵する大型の「藁ぶく」もある。

### 【調理・調整用具】

竹製品の杓子やぐら、竹柄杓、碗めご、大めご、竹めご、盃めご、など貴重な用具が豊富に揃っている。

杓の種類は、餅つき用、早稲搗き用、味噌搗き用、手杓があり、特に早稲搗き杓は、一度に 4 人で搗くので、4 丁の杓が必要である。

「茶臼」を用いて、葉茶を挽き、木綿袋に茶の粉を入れ、茶釜を用いて、囲炉裏で煮立てて給水して 2~3 日使用した。

「右臼」は、穀類を挽いて粉にする器で、豆腐造り、黄粉、ソバ、米粉にも用いた。

### 【飲食用具】

飲食用具は、藁製品の飯ぶく、皿ぶく、盃すぼ、などがある。婚礼など祝儀の席で「広盆」の上に大平、盃洗、三ツ重盃、を配するセットものは、各家庭に 1 セットは所有していた。硯蓋、角樽も祝宴の席での必要品であった。

日常は、箱膳を各自が所有し、3 日に一度洗う程度で、食事後に各自がお茶で濯いで箱膳に保管していた。囲炉裏端での展示をご覧ください。



醸造・製造・貯蔵用具



調理・調整用具



飲食用具

## 波佐の緒職用具

この緒職用具は、江戸時代以降の波佐地方の生業の基盤であった、たたら製鉄(鉄穴流し、鉦場、鍛冶屋)、家屋の屋根葺き、紺屋の藍染、炭焼き、養蚕などの緒職用具をとりまとめたもので、製品も含まれている。

- |           |      |                |
|-----------|------|----------------|
| 1. 鉄穴流し用具 | 15点  | (金城歴史民俗資料館に展示) |
| 2. 鉦製鉄用具  | 31点  | (金城歴史民俗資料館に展示) |
| 3. 鍛冶屋用具  | 126点 | (金城歴史民俗資料館に展示) |
| 4. 炭焼き用具  | 48点  | (金城民俗資料館に展示)   |
| 5. 屋根葺き用具 | 26点  | (金城民俗資料館に展示)   |
| 6. 紺屋関係用具 | 494点 | (金城民俗資料館に展示)   |
| 7. 養蚕用具   | 15点  | (金城民俗資料館に展示)   |

### 【炭焼き用具】

江戸時代は、たたら場付炭焼きは専門職であったが、明治以降は百姓たちも挙って炭焼き産業に従事した。

明治、大正昭和と主要産業となった。プロパンガスの普及によって、昭和30年代で終息した。

炭俵、炭切り鋸、腰鋸、ピロ、手鉈、矢、樵手斧、張り矢、梓木、サンダワラ、ヤナセ、柳チリトリ、炭トリ、ヘヤ木、炭切り台、鋸、窯十能、吊カギ、こっとい、ハバキ、ガンジキ、槌、炭サライ、スデ、窯叩き、木槌、雪輪、横挽き鋸など。

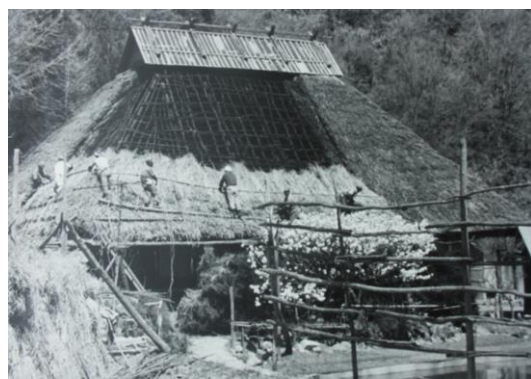


炭焼き用具

### 【屋根葺き用具】

昭和30年代まで、母屋の茅葺き作業は、ユイ講で行われてきた。全家庭で屋根葺き道具は人揃え所有していた。昭和30年代をもって、殆んど瓦屋根に葺き替えられた。

屋根鉾、屋根針、ツツキ、へら、へや木、結縄など。



屋根葺き作業

### 【紺屋関係用具】

江戸時代の紺屋は津和野藩から紺屋職の許可を得て、藍染を行っていた。波佐地方では2軒の紺屋があった。

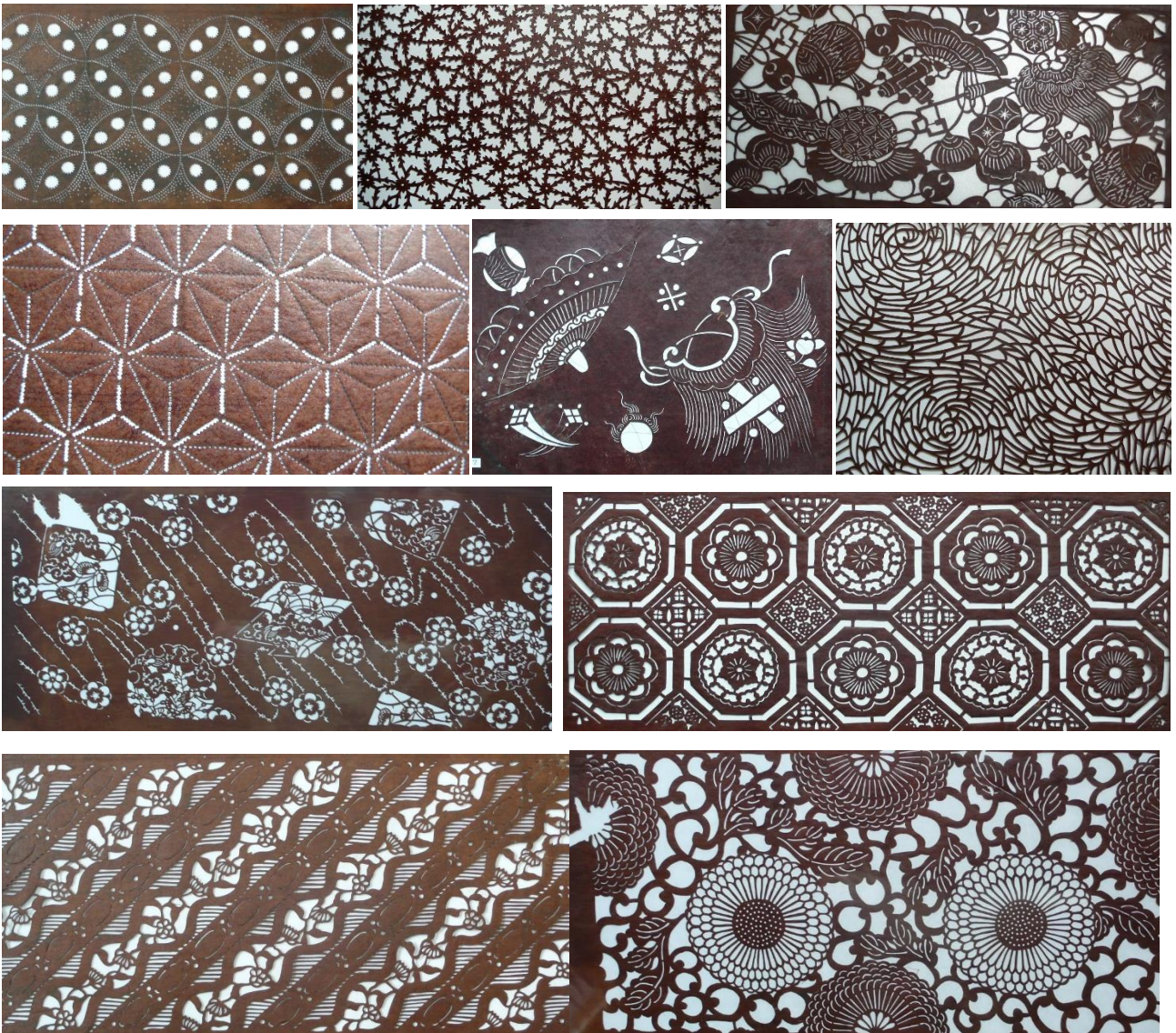
文政2年(1819)に創業した室屋谷源右衛門源治が使用した藍染型紙492点(白子型紙、京型紙、地元型紙)を収蔵。型紙には、問屋業者の陰影があり、流通経路や作成された時代、兄弟型紙の調査で全国的な流通先まで研究できると思われます。

藍竈、紺屋の型紙。



型紙の印影と藍竈

【紺屋の型紙】 1. 錐彫 2. 突彫 3. 道具彫 4. 縞彫 の4通りの彫刻で、一度に7、8枚の型紙を重ねて彫刻するので、兄弟型紙があります。繊細な図柄には、柿渋の上に黒漆を貼付した型紙もあります。



### 【養蚕用具】

養蚕は、明治8年以降、波佐地方の各戸で盛んに行われてきた。明治、大正時代が最盛期であった。昭和20年代まで飼育された。明治22年頃には、波佐の潤郷館で女工6名による製糸が行われていた。

蚕座、毛羽取機、ザグリ、桑切り包丁、製紙の道具、桑網、蚕箔、桑綱、やどい、給桑台、毛羽取機、桑籠、温度鉢など。



# 浜田市金城歴史民俗資料館 (S53.11.3 開館)

この歴史民俗資料館は、民俗資料館の真向かいにある白壁の建物です、波佐地方は西中国山地の良質な真砂鉄と豊富な木炭資源に恵まれていたことから「たたら製鉄法」が古来行われてきた。平安末期には、「黒金」の名称で年貢注文されていた。

鉄穴流し場、鉦所、鍛冶屋などの生産遺跡が50数か所あります。特に、この歴史館は栃下鉦處から製品とした「長割鉄」を問屋へ出荷までの間、一時この蔵に集荷一時保管していたことから「たたら蔵」と呼ばれていた。

約200年前に建てられた、この蔵は所有者佐竹操氏から市が寄贈を受け、文化財として永久に保存活用をはかるため「歴史民俗資料館」として改修した展示館です。



浜田市金城歴史民俗資料館

こうしたことから「たたら」に重点を置いた「二丁鞆鉦」の復元展示、たたら関係用具、たたら古文書、たたら製鉄品など石見地方唯一の「たたら資料館」です。

また、この町で生まれた偉人、能海寛・島村抱月の資料、埋蔵文化財、歴史資料を収蔵・展示しています。

## 【歴史資料】

- 能海寛資料……………3,000点
- たたら製鉄用具……………31点
- 鉄穴流し用……………15点
- 鍛冶屋用具……………126点
- 島村抱月資料……………50点
- たたら古文書……………6,600点
- 地方文書……………500点
- 考古資料……………3,000点
- 神楽関係資料……………20点



二丁鞆鉦

## 【市指定文化財】

- 歴史資料「金城たたら関係文書」 35点  
桂迫鉦の創生期から終末までの全資料
- 歴史資料「能海寛関係資料」 375点  
チベット巡礼探検家の将来品など
- 考古資料「千年比丘1号墳出土品」 一括  
4世紀前半の石見地方最古の円墳から出土
- 考古資料「金田1号墳出土品」 一括  
7世紀の片袖式横穴石室から出土



たたら製鉄再現実験

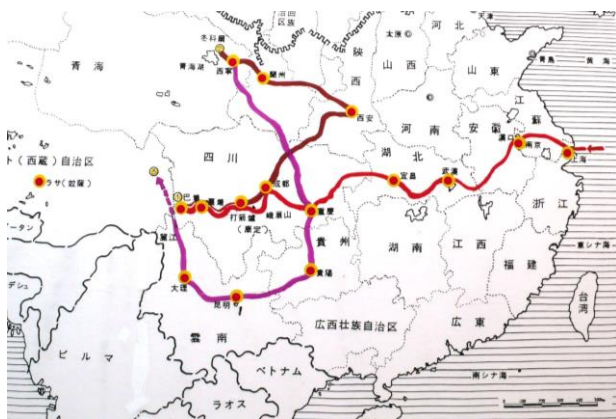
## 歴史資料「能海寛関係資料」

明治の玄奘三蔵とも称される学僧「能海寛」は、明治元年、金城町長田、天頂山浄蓮寺に生まれる。宗教家として頭角を表し、サンスクリット經典、西藏大蔵經を入手して、英訳經典を世に出し、一統宗教として、釈迦直伝の仏教を世界に広めようと仏教巡礼探検に向かった。

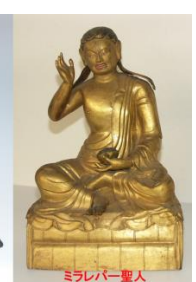
明治31年11月から中国大陸に渡り、2年半の間、聖地巡礼とサンスクリット經典の探索をおこなった。この間に、貴重な經典、仏具、仏像、拓本など多数の将来品を日本へ届けた。

中国・ダルツェンド滞在中に「般若心經」、「無量寿智經」、「弥勒菩薩誓願經」、「金剛經」、「西藏語ボン教の無量寿經」など4か国語に翻訳した。

平成22年には、『能海寛著作集』(全15巻・17冊、別巻1冊)が能海寛研究会によって刊行された。



能海寛の将来品

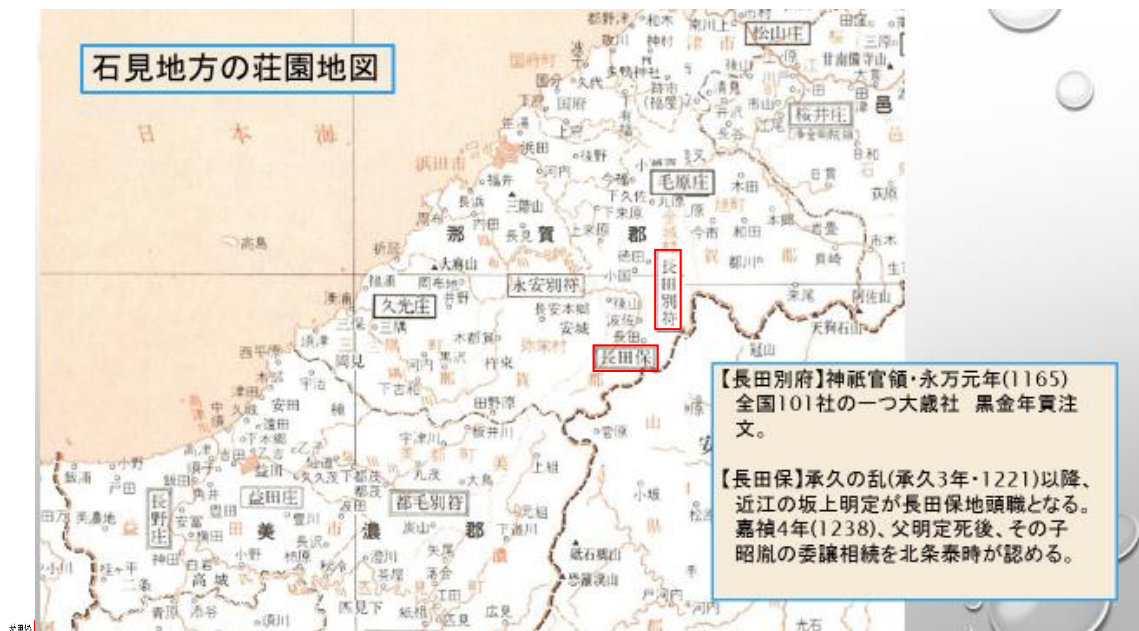


## 【たたら製鉄展示室】

石見地方で唯一の「たたら製鉄」資料館です。古来、たたら鉄は「黒金」と呼ばれ、永万元年(1165)には、神祇官領「長田別府」(金城町波佐・長田)の時代に、大歳神社(金城町波佐)が「黒金」の年貢注文がされていた。承久3年(1221)の「承久の乱」以後、北条泰時は、西国の公家・武士の領地 3,000 箇所を没収して、地頭職(新補地頭)を任命して再配分した。近江の坂上明定、昭胤親子は 2 代に亘って「長田保」が分配された。特に山野の収益「黒金」は、魅力であった。元弘3年(1333)反幕の足利尊氏により地頭制度は滅亡した。

その後、戦国時代は毛利・吉川・尼子の戦国武将が「黒金」を巡って戦乱の世をくぐり抜けてきた。戦国末期には、吉川家の御料所、銀 70 貫であった。江戸時代は、津和野藩の飛地領であったのは、那賀郡の鉄山地域 26 ケ村が加領されたことによる。

江戸末期には、民営による「たたら製鉄」が盛んになり、農民は馬を飼育し砂鉄・銑鉄の運搬面で支援し繁栄した。こうした時代背景の下で石見地方の「たたら製鉄」の歴史を理解願いたい。



### 【鉄穴流し用具】

たたら製鉄で、欠かすことの出来ない砂鉄を採集する用具で、花崗岩、閃緑岩の地域では、良質な砂鉄採集が古来行われてきた。江戸末期が最盛期で、明治 30 年代まで行われた。

ジョレン、トギリ、エブリ、カナテコボウ、小鉄袋など。



### 【鉦製鉄用具】

この地方のたたら製鉄は、江戸時代になると民営で経営されるようになり、江戸末期には、最盛期を迎えた。たたら製鉄によって、地域全体の経済が潤い好循環で産業が成り立っていた。明治に入ると洋鉄の伝来により、次第に斜陽産業となり、明治 30 年代で消滅した。勘場を中心に、たたら吹小屋で使った用具である。

鉦轆、大鉄又、湯ナデ、小鉄柵、炭クマデ、釜イデ熊手、エブリ、斤量、水鉄砲、両替天秤、瓢箪秤、算盤、自在鉤など。



### 【鍛冶屋用具】

たたら製鉄で出来た銑鉄を加工する鍛冶屋の用具で、この地域では、2 軒の鍛冶屋が操業していた。

鍛冶屋フィゴ、金型、ムコウヅチ、タガネ、手ヅチ、リョウアテビチ、丸アテビチ、角アテビチ、ゲンノウ、手ズチ、タガネ、コズチ、大ヒバシ、丸ボウハサミ、ナガバサミ、ゲンノウハサミ、トリノクチ(小)、トリノクチ(大)、ヒラバサミ、ヨコバサミ、カナヒバシ、カナズチ、木呂、チョウノメウチ、小ゲンノウ、大ゲンノウ、クワのメウチ、ドウガネマキ(小)、ドウガネマキ(大)、マルポンチ(小)、マルポンチ(大)、火箸、クワのメウチなど。



## 【埋蔵文化財】

金城町の遺跡から出土した「考古資料」は、縄文時代後期から江戸時代までの遺跡から 3,000 点の出土品を収蔵しています。「千年比丘 1 号墳」出土品一括、「金田 1 号墳」出土品一括は浜田市指定文化財です。特に、千年比丘 1 号墳(円墳)は、市指定文化財(史跡)で石見地方最古の古墳で、墳丘上に弥生期の「砥石」が埋納されていました。鉄作り集団の長が埋葬されたものと考えられます。



石峰&抱月のふるさと「地域まるごと博物館」

# 民俗資料回想セラピー

【民俗資料回想セラピー】を実践している資料館



浜田市金城町波佐イ425-5  
浜田市金城民俗資料館

## 【民俗資料回想セラピー】を実践する金城資料館

民俗資料を通して、認知症の予防・抑制の「民俗資料回想セラピー」を実施している資料館です。高齢者を対象に収蔵展示している民俗資料を活用した回想セラピーのできる資料館運営を行っています。かつては、自分たちが使用していた民具を手に触れながら、楽しくおしゃべりや民具を用いた労働慣行の写真映像を観て認知症の予防・進行抑制にケア支援できるプログラムを作成しています。介護施設入所者や高齢者グループによる、ご来館を是非お勧めします。

### 【回想によるメンタルケアセラピー・プログラム】

- I 金城民俗資料館で民具を見学（1時間）昔の道具の使用回想
- II 映像資料による回想（1時間）実践民俗学提唱（50年間で作成して来た）データに基づく映像視聴による過去の体験を回想し「心」の癒しを導き自己治癒力を促す。
- III ディスカッション（30分間）年中行事を中心に意見交換を行い、回想を引き出します。

金城民俗資料館は、波佐の山村生産用具 758 点（国指定）、波佐の山村生活用具 221 点（島根県指定）を含む 3,500 点の民具を収蔵・展示しています。50 年前に収集した民具は、質・量ともに貴重で、特に江戸時代の紙漉き用具は他に類を見ない希少な用具です。囲炉裏の間も、完全復元して往時を体験できます。回想セラピー・プログラムをご希望のお方はご連絡ください。

浜田市金城資料館（指定管理者）西中国山地民具を守る会  
（お問合せ先） ☎ 090-4697-2818

【参考】民俗資料をアプローチし、本人に気づき、回想を導き、視聴、ディスカッションなどで、過去の体験を回想し、「心」の癒しを導き、自己治癒力を促し、認知症の予防、抑制に自己治癒力を増進させることを目的とする。

ミュージアム

## 「波佐まるごと博物館」スタンプラリー帳

① 浜田市金城民俗資料館(国・県指定有形民俗文化財) ⇒ ② 浜田市金城歴史民俗資料館(市指定「能海寛歴史資料」・市指定「たたら関係古文書」) ⇒ ③ 浄蓮寺(能海寛顕彰碑、市指定天然記念物「ハクモクレン」) ⇒ ④ 亀遊山大歳神社(市指定史跡・波佐一本松城) ⇒ ⑤ 常磐山八幡宮(県指定天然記念物・常磐の大杉・みんなで守る郷土の自然「常磐のカシ林」) ⇒ ⑥ 普明山永昌寺(尼子経久公の墓)の6箇所を巡るスタンプラリーコースを設定しております。地図を確認して巡回ください。



【記念スタンプ】 ※「波佐まるごとミュージアム」を巡るコース内の6箇所に設置しています。

① 浜田市金城民俗資料館と歌碑



② 浜田市金城歴史民俗資料館



③ 天頂山浄蓮寺と能海寛師顕彰碑



④ 大歳神社と波佐一本松城跡



⑤ 常磐山八幡宮とカシ林遊歩道



⑥ 普明山永昌寺と尼子経久の墓



【お知らせ】 このスタンプラリー帳(位置図付)は、金城民俗資料館に備えてあります。6箇所巡回すると3Kmの距離となります。ウォーキングを兼ねて、スタンプラリーをお楽しみください。

## カルチャーミュージアム(学べる博物館)メニュー

- 【自然】 ● 国定公園大佐山・大潰山でハイキング／自然観察
- 周布川で「水生昆虫観察」／アユ・ヤマメ・ウナギ釣り
- みんなで守る郷土の自然「常磐のカシ林」と遊歩道で自然観察
- 県・市指定天然記念物の「巨樹・巨木群めぐり」
- 【歴史】 ● 「笠松峠の畳石路」ハイキングコース／自然観察
- 「千年比丘一号墳」と経塚めぐり
- 波佐一本松城・花城の「城郭めぐり」で中世の山岳城郭を学ぶ
- 黒金(たたら製鉄)の研究ネットワークを金城歴史民俗資料館で
- 【文化】 ● 浜田市金城民俗資料館で民俗学・民具学を学ぶ
- 浜田市金城歴史民俗資料館で考古学・冶金学を学ぶ
- 能海寛研究会で「チベットセミナー」聴講 ● 能海寛歌碑めぐりコース
- 文化講演会で「文化財学習」 ● 島村抱月文学散歩コース
- 【景観】 ● 傍示峠からの「波佐・長田地域の遠望」
- 大井谷の「棚田風景」
- 周布川と「波佐のピラミッド(花城)」の風景
- 猿瀧の「沢登り」体験
- 【まつり】 ● ほたる祭り／ほたる回廊
- 秋祭りと夜神楽

## 実践民俗学提唱50年間の実績

- ①「旧製法による『紙漉き』の再現、記録作成」  
(1971.12～1972.2)
- ②「楮カマド」の移設復元展示。(1972.12)
- ③「囲炉裏の間」の移設復元展示。(1973.3～4)
- ④「農具を用いた労働慣行」記録作成。(1975.5～11)
- ⑤「がしん俵」の稗栽培実験。(1976.5)
- ⑥「麻の栽培」と「麻蒸し」記録作成。(1977.5～8)
- ⑦「二丁フイゴたたら」の復元展示。(1978.10)
- ⑧ 早稲つき再現記録作成。(1981.10)
- ⑨ 古老による「トロヘイ」の復元、記録作成(1988.2)
- ⑩ 古代「たたら製鉄」の再現実験。(2009.12)(2010.3)
- ⑪ 「綿花の栽培」記録作成。(2016.5～11)

## ふるさと出版図書



-36-

## 【紙漉きに関する論文】

### 「波佐の紙漉きと紙布づくり」

(隅田正三・1971年・「季刊文化財」鳥根県文化財愛護協会刊)

### 「紙漉き用具・習俗の比較から見た東西の変遷」

(隅田正三・1973年・「季刊文化財」鳥根県文化財愛護協会刊)

### 「石見山間部の紙漉き用具」

(隅田正三・1976年・「山陰民俗研究」山陰民俗学会刊)

### 「石見の紙布づくり」

(隅田正三・1980年・「染色と生活」第30号・染色と生活社刊)

### 「浜田・那賀の民俗調査から」

(隅田正三・1984年・「季刊文化財」鳥根県文化財愛護協会刊)

### 民俗小論文集「石見地方の紙漉き習俗」

(隅田正三・1989年・和紙の里産業組合刊)

### 「民具を用いた労働慣行」

(2007年・西中国山地民具を守る会編)



ふるさとの偉人・能海寛学習 2018.10.4



各種の「ふるさと学習」の受入講座も承っています。

# ふるさとの偉人・石峰&抱月



能海 寛

チベット探検の先駆者・宗教哲学者。明治元年5月18日、金城町長田浄蓮寺に生れる。哲学館（現在の東洋大学）卒。「チベット語大蔵經」を入手し英訳經典を世に出すため当時鎖国中のチベット領に入国する。著書『世界に於ける佛教徒』。翻訳「般若心經（梵・藏・漢・英対訳）」ほか。



能海寛顕彰碑



島村 抱月

評論家・作家・演出家。明治4年1月10日金城町小国下土居に生れる。早大卒。早大教授。自然主義文学運動・新劇運動に貢献した。文芸協会を経て女優松井須磨子と芸術座を結成。海外を始め日本全国津々浦々をくまなく巡回し欧州近代劇の大衆化に尽力。著書『近代文芸之研究』など多数。



島村抱月生誕地



市内各小学校からの見学

## 金城資料館入館料（2館共通券）

大人	300円	団体 25名以上	200円
中・高・大学生	100円	(団体)	60円
小学生	60円	(団体)	30円
開館日	土曜日・日曜日（9:00 — 17:00）		
その他	開館日以外を希望されるお方は、前日までに、ご予約願います。		
連絡先	☎ 090-4697-2818		
	(指定管理者 西中国山地民具を守る会)		

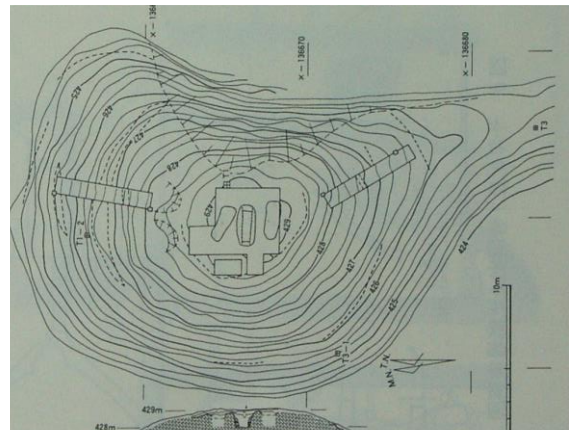
## 市指定史跡【千年比丘1号墳】

この千年比丘1号墳は、金城町長田中山(南北400m)の北側の先端部に直径15mの円墳で石見地方最古の古墳(4世紀前半)である。埋葬施設は東西に川の字型に3つの埋葬施設がある。墳丘上には頭大の砥石(弥生時代)が置かれていた。長田郷遺跡を拠点とした黒金(たたら鉄)づくりの首長が埋葬されたものと考えられる。

墳丘上には鼓型器台などが壊されバラ撒かれた儀式的様相を呈している。周辺には長田郷遺跡(縄文晩期・弥生・古墳時代)、城ノ前遺跡(奈良時代)、ナゴダ遺跡(弥生時代)、寺田前遺跡(弥生時代)などの集落遺跡があり、七渡瀬Ⅱ遺跡(縄文・弥生・古墳・奈良時代)の住居址はセットである。古代のたたら製鉄を考察する上で貴重な遺跡である。



千年比丘1号墳



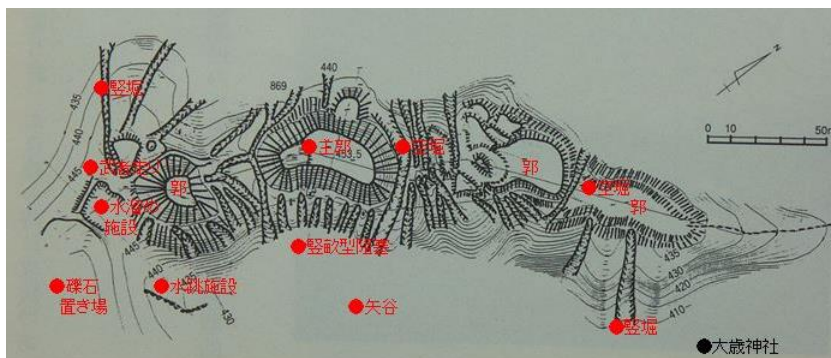
## 市指定史跡【波佐一本松城】

鎌倉時代から戦国時代までの中世の山城で、主郭(300m)を中心とした4つの郭、2つの出郭、腰郭、竪畝状空堀群、堀切、切通し、礫石置き場、軍用水路跡、石垣があり、防御を主にした守りの城郭。南北1km、東西400mの山城は弓矢の時代から鉄砲の時代まで使用されたため、空堀も工夫が施されている。南北朝時代建武元年(1334)に波佐谷の合戦があり千人塚、劔の墓がある。

波佐地区は、黒金(たたら鉄)の産地であったことから戦国末期には、吉川氏の御料所であった。周辺遺跡から12~15世紀の中国産の青磁が出土している。

この山城の特徴は、陰陽道の鬼門除けの為に東北の方向に大歳神社を構築し、南の方向に虎口を設けている。また礫石置き場、水攻め施設など山城研究には最適な城郭である。

城山の歌碑はときわ会館駐車場に設置されている。所要時間3時間



波佐一本松城の平面図



礫石置き場付近の大堀切

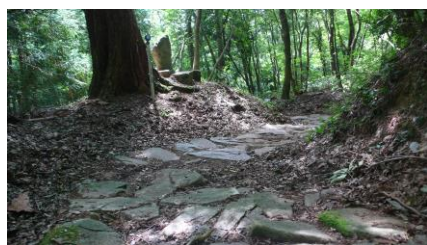
## 浜田市指定史跡 【 笠松峠の畳石路 】

この畳石路は文化8年(1811)に完成した旧津和野藩時代の奥筋街道で、「鉄と紙道」である。頂上までの全長1,800mの内、畳石部分は1,200m、幅1.2mで、全国第2位の長さを誇る畳石路である。

畳石路の急な場所は鼻先を浮かせて階段状とし、馬の蹄が滑らないよう施行されている。たたら製鉄の盛んだった、この時代は井野村から砂鉄の運搬で馬が使用され、蹄で道が損傷するため、200年前に畳石が敷設された。津和野藩主亀井公が領内御巡検で馬乗通行、能海寛も法務往来の時には、この畳石路を往来した。

このコース内は、猿飛び橋、亀岩、鉄穴流し跡、立石(設置記念碑)、大芝(藩主巡見時の休憩場所)、涼みの松、水の横川地藏(休憩・水飲み場)がある。初夏頃からアカショウビンの鳴き声が聞かれる場所でもある。

※所要時間：3時間



畳石路・立石(記念碑)



水の横川地藏前

畳石路の様

## みんなで守る郷土の自然地域 【 常磐のカシ林と大杉 】

林内は遊歩道が設置され自然観察に最適です。



ウラジロカシ 33 株の樹林帯



樹林内の遊歩道



郷土の自然地域看板

# Culture Museum 学べる博物館

チベット巡礼探検家・能海寛と文豪・島村抱月のふるさと金城町の2つの資料館（浜田市金城民俗資料館・浜田市金城歴史民俗資料館）を郭とした半径1Kmの範囲には様々な文化財や歴史的建造物、またそれを紹介する文化施設がある。それらを「学べる博物館」と称して、紹介する活動を行っています。

波佐文化協会では、冊子『波佐まるごとミュージアム』を発刊して、ふるさと学習、地域学習の資料として活用を図っています。http://hazaway.com/docs/Museum\_guidebook.pdf

考古学、歴史、民俗、冶金、偉人、自然観察などを紹介



の うみ ゆたか  
能 海 寛

チベット巡礼探検の先駆者・宗教哲学者・新仏教徒運動の提唱者。明治元年5月18日、金城町長田浄蓮寺に生れる。哲学館（現在の東洋大学）卒。18才でチベット探検を公言。25才の時自著『世界に於ける佛教徒』を出版する。「チベット語大蔵経」を入手し英訳経典を世に出すため当時鎖国中のチベット領に入国する。翻訳「般若心経（梵・藏・漢・英対訳）」、西藏「ボン教」訳など多数。多くの紀行文、研究記録を残す。仏典・仏具・希少拓本など持来品を日本へ伝えた。号を石峰とする。

しま なら ほう げつ  
島 村 抱 月

評論家・作家・演出家。明治4年1月10日金城町小国下土居に生れる。早大卒。早大教授。自然主義文学運動・新劇運動に貢献した。文芸協会を経て女優松井須磨子と芸術座を結成。海外を始め日本全国津々浦々をくまなく巡回し欧州近代劇の大衆化に尽力。著書『近代文芸之研究』など多数。ふるさとに関する文学作品に、「故郷の父」、「浜田港に寄せる」がある。旧姓は、佐々山瀧太郎である。20才の時に、島村文耕と養子縁組をなす。

冊子『波佐まるごと博物館』（A5判、カラー44p）この冊子を用いて一人でも地図の位置を見て、まるごとミュージアムが巡回できるよう工夫し、地域の特産品なども紹介した。「地域まるごと博物館」へ来町され学べる博物館としての機能が発揮できる。受入とガイドの研鑽を積み末永く利用者に親しまれる学べる博物館を目指します。6箇所にて小型記念スタンプが設置してあります。

## ふるさとガイド・モデルコース

- 石峰&抱月のふるさと金城町
- ① カルチャーミュージアムを訪ねる旅
  - ② 能海寛歌碑めぐりコースを訪ねる旅
  - ③ たたら製鉄資料と関係遺跡を訪ねる旅
  - ④ 畳石路と山岳城郭を訪ねる旅
  - ⑤ 能海寛と島村抱月のふるさとを訪ねる旅
  - ⑥ 抱月文学散歩コースを訪ねる旅
  - ⑦ グラウンド・ゴルフと食散策の旅
  - ⑧ 民俗資料回想セラピー



### 【地域情報】

「波佐ネット通信」で情報発信を行っています。

http://hazaway.com/

ガイドのお問合せは

波佐文化協会

☎ 090-4697-2818

e-mail:hazaway.com

http://hazaway.com/culture/h

azabunkakyoukai/

